

# 国語 第5学年 事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう

## 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の2月～3月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

### この単元で子どもが最後にできるようになること

学校や暮らしをよりよくする学習の提案を、確かめた事実、自分の感想、提案の意見に分けて構成する。相手に賛成を求める前に、なぜその学習が必要かが根拠から伝わる話にする。単元の終わりに残すのは、提案の構成メモ。問題、事実、感想、提案、見込める変化とまだ確かめたいことを区別する。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

### 学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

| 学習指導要領の項目                   | 原文                                           |
|-----------------------------|----------------------------------------------|
| 〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)イ    | イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。                       |
| 〔第5学年及び第6学年〕A 話すこと・聞くこと(1)イ | イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 |

### 単元の目標

話し言葉と書き言葉の違いに気付き、聞いて分かる言い方を選べる。事実と感想、意見を区別し、提案の必要性が伝わるように話の構成を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

### 評価規準（3観点）

| 知識・技能                                            | 思考・判断・表現                                                      | 主体的に学習に取り組む態度                                                   |
|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| ①話し言葉と書き言葉の違いに気付き、聞いて分かる言い方を選んでいる。（〔知識及び技能〕(1)イ） | ①「話すこと・聞くこと」において、事実と感想、意見を区別し、提案の必要性が伝わるように話の構成を考えている。（A(1)イ） | ①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。 |

### 単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全6時間（話・聞⑥）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

| 次   | 時 | 学習活動                        | 評価規準（評価方法）   |
|-----|---|-----------------------------|--------------|
| 第1次 | 1 | ○提案する相手と目的を確かめ、学習したい課題を考える。 | 学習状況を見て支援する。 |

| 次   | 時             | 学習活動                             | 評価規準（評価方法）       |
|-----|---------------|----------------------------------|------------------|
| 第2次 | 2             | ○課題に関わる事実を集め、感想や推測と分ける。          | 知①（語句や内容の整理）     |
|     | 3             | ○問題と提案の関係を考え、話す順をメモにする。          | 学習状況を見て支援する。     |
|     | 4<br>（本<br>時） | ○構成メモで提案し、聞き手が事実と意見を区別できるかを確かめる。 | 思①（発言・学習記録）      |
|     | 5             | ○質問を受け、根拠の不足や言い切り方を直して提案する。      | 学習状況を見て支援する。     |
| 第3次 | 6             | ○提案を聞き合い、事実と意見を分けて話した効果を振り返る。    | 態①（学習前後の記録・振り返り） |



## 本時の案

本時の目標：事実と感想、意見を区別し、提案の必要性が伝わるように話の構成を考えられる。

| 段階          | 学習活動（○主な発問）<br>・予想される児童の反応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 指導上の留意点（◎評価）                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>（ 分）  | <p>本時に使う教材・前時までのノートを確認し、自分の最初の考えを短く書く。</p> <p>○「提案の理由になっているのは、確かめた事実ですか、自分の感想ですか。聞く人が区別できる順序や言い方になっていますか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】学校や暮らしをよりよくする学習の提案を、確かめた事実、自分の感想、提案の意見に分けて構成する。</p> </div> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・便利そうだと思うだけでは、必要な理由として弱い。</li> </ul> | <p>本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。</p>                                                                                                                                                                                                                 |
| 展開<br>（ 分）  | <p>○「提案の理由になっているのは、確かめた事実ですか、自分の感想ですか。聞く人が区別できる順序や言い方になっていますか」</p> <p>提案のために集めた材料を事実・感想・意見に分け、提案の必要性を示す順に構成メモを作る。聞いて分かる言い方で提案を試し、聞き手が受け取った必要性和根拠を返す。説明が足りない点を基に構成を直す。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・便利そうだと思うだけでは、必要な理由として弱い。</li> <li>・自分で困っていることと自分の案を分けたい。</li> <li>・友達の提案の根拠は自分の根拠と異なる。</li> </ul>               | <p>メモを「確かめたこと」「感じたこと」「提案」に分類する。事実の欄には確かめた方法を添える。調べられないことは未確認として述べ、数字や多数派の意見を作らない。</p> <p>想定する難しさ：みんなが望んでいるなど未調査のことを事実として話す。提案の説明が長く、理由との関係が見えない。</p> <p>児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。</p> <p>◎思① 事実と感想、意見を区別し、提案の必要性が伝わるように話の構成を考えている。（材料の分類・提案の構成メモと修正）</p> |
| まとめ<br>（ 分） | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。</p> </div> <p>学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。</li> <li>・友達の提案の根拠は自分の根拠と異なる。</li> </ul>                                             | <p>まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。</p> <p>◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）</p>                                                                                                                                                                     |

## 板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「提案の理由になっているのは、確かめた事実ですか、自分の感想ですか。聞く人が区別できる順序や言い方になっていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

## つまずきやすい所と手当て

難しさとして、みんなが望んでいるなど未調査のことを事実として話す。提案の説明が長く、理由との関係が見えない。この場合は、メモを「確かめたこと」「感じたこと」「提案」に分類する。事実の欄には確かめた方法を添える。調べられないことは未確認として述べ、数字や多数派の意見を作らない。おおむね満足できる状況は、事実と感想、意見を区別し、提案の必要性が伝わるように話の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

## プリントの案

### 単元の学習メモ

提案の構成メモ。問題、事実、感想、提案、見込める変化とまだ確かめたいことを区別する。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

### 交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時間・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」265行目（[https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download\\_file/view/d8b2753f1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368](https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368)）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_pri\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

